

平成 28 (2016) 年 12 月 1 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

マリア校交流で、子どもたちはさまざまな体験を通して、ベネズエラの人々を理解していきます！
国際理解は頭で理解するものではありません！ 国際交流体験で学ぶものです！



マリア校のみなさん、いつも温かく迎えてくださって、ありがとうございます！

11月29日(火)に11年間交流しているマリア校との交流会を実施しました。今回は本校児童がマリア校を訪ねる形の交流でした。いつもそうですが、マリア校の皆さんは温かく私たちを歓迎してくださいます。授業交流、文化交流で両校の絆、日本とベネズエラとの絆は、ますます強くなりました。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その140)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 35

カラカス日本人学校に一番長い年月勤務した方は誰かと言いますと、それは中野俊子先生です。補習校時代に3年間、全日制創立から23年間、合計26年間勤務されました。中野先生は現在、日本に住んでおられます。昨年11月に開催された東京での創立40周年同窓会に、元気な顔を見せてくださったそうです。参加者の中には、多くの教え子があり、「中野先生にお会いできて、同窓会に参加した甲斐がありました」「中野先生の昔と変わらない元気な姿に勇気をもらいました」といった声が聞かれたそうです。中野先生は、英語科の先生です。その授業の凄さは、今も伝説として残っているほどです。中野先生が書かれた補習校時代の話が残されています。ここにこれから何回かに分けて紹介します。

■カラカス日本語補習校の歴史…(中野俊子)■ 1967年当時、カラカスでは企業駐在員有志の子女のために、教職経験のある駐在員主婦の方の指導で個人的に国語のグループ学習が行われていた。着任された広田樸大使にも中2のお嬢さんがいらしたこともあってか、大使ご夫妻の首唱で日本語学校の設立が提案された。同年4月頃だったと思うが、当時会員であった私が出席したシルクロ・ミリタルでのカトリア会の席上、広田夫人がその提議をされた。その場で、当時大使館員で教職経験のある橋本貞夫氏の名が講師候補の一人として挙げられた時、広田夫人が「灯台下暗しでしたね」と言われたのを覚えている。以来、1982年に帰国されるまで、授業担当と同時に橋本氏が運営の実務を引き受けられることになる。私が講師の一人として参加した1972年には補習校はシヨントルに移っていて、生徒数は60名を越え、中学部2学級、小学部5学級ほどではなかったかと思う。

(写真：1985年 創立10周年記念式典で表彰される中野俊子先生) つづく

